養川が作った堰巡り新しい発見

町公民館が小六で探検隊

富士見町公民館は10日、講座「歩いて学ぼう！堰探検隊～小六堰編」を開いた。町内の15人が参加。NPO法人地域学習支援センターの関雅一さん＝諏訪市湖南＝と地元の有賀敬治さん＝小六＝の案内で、小六仙ケ沢汐（ころくせんがさわせき）の取り入れ口から小六公民館まで約6キロを歩いて見学した。

坂本養川が作った小六仙ケ沢汐を見学する参加者

江戸時代に八ケ岳山麓の治水に尽力した坂本養川が作った町内に三つある堰を回る講座。立場川乙事堰を巡ったのに続いて2回目となる。

江戸時代の小六村では、村内にあった飯山湧水を利用していたが、干ばつや水田開発のため安定した水が必要になり、養川が繰越堰の開発計画書を提出。16年を経て寛政3（1791）年に完成すると、石高は以前の3倍に増えたという。

立沢の取水口を出発すると、水の流れに沿ってゆっくりと高低差900メートルを歩いて下った。湧水や別の堰の水と混ざらないように作られた立体交差、大水であふれないように2メートルほど掘った水路などを見て、先人の知恵に触れた。

参加した小池則男さんは「久しぶりに歩いて新しい発見もあった。農村地帯だから水利のために村がまとまった。耕作放棄地が増えているが、守っていきたい」と話した。